



中部電力

2021年度第1四半期 投資家向けIR説明資料

2021年7月30日

I 2021年度第1四半期 決算概要	<スライド番号>	Ⅲ 参考データ：経営関連	<スライド番号>
決算概要	1	連結経常損益・純損益の推移	16
セグメント別決算概要	4	資金調達・有利子負債残高の推移	17
発電電力量	8	連結キャッシュ・フローの推移	18
（参考）期ずれ影響のイメージ（実績）	9	連結財務体質の推移・格付	19
2021年度 業績見通しの概要	10	連結ROA・ROEの推移	20
（参考）期ずれ影響のイメージ（年度見通し）	12	株主総利回り（TSR）の推移	21
		ミライズグループ販売状況について	22
		ミライズ販売電力量の月別推移	23
		2020年度電源構成（速報値）	24
		再生可能エネルギー事業の概要	25
		海外事業の概要	26
		浜岡原子力発電所の審査状況	28
Ⅱ 参考データ：決算・財務関連	<スライド番号>		
連結収支比較表	13		
連結財政状態の概要	14		
財務関連指標等	15		

I 2021年度第1四半期 決算概要

(注) 「年度」表記は4月から翌年3月までの期間を、「1 Q」表記は4月から6月までの期間を指します。
表示単位未満の数値について、金額は切り捨て、販売電力量や発電電力量などの諸元は四捨五入で記載しております。

〈決算のポイント〉（連結）

- 売上高：5,249億円
「収益認識に関する会計基準」の適用影響（△1,664億円）などから、前年同期に比べ1,574億円の減収。
- 経常利益：485億円
期ずれが差益から差損に転じたこと(△160億円[50億円→△110億円])や、ミライズにおける競争影響および卸電力取引市場の価格上昇に伴う電源調達コストの増加などはあったものの、JERAにおける利益の増加（+333億円）などから、前年同期に比べ3億円の増益
(参考) 期ずれを除いた経常利益：600億円程度

- ・ 売上高は、2020/1Qに続き、2年連続の減収
- ・ 経常利益は、2019/1Q以来、2年ぶりの増益
- ・ 2009/1Q以来、12年ぶりの減収増益

(億円,%)

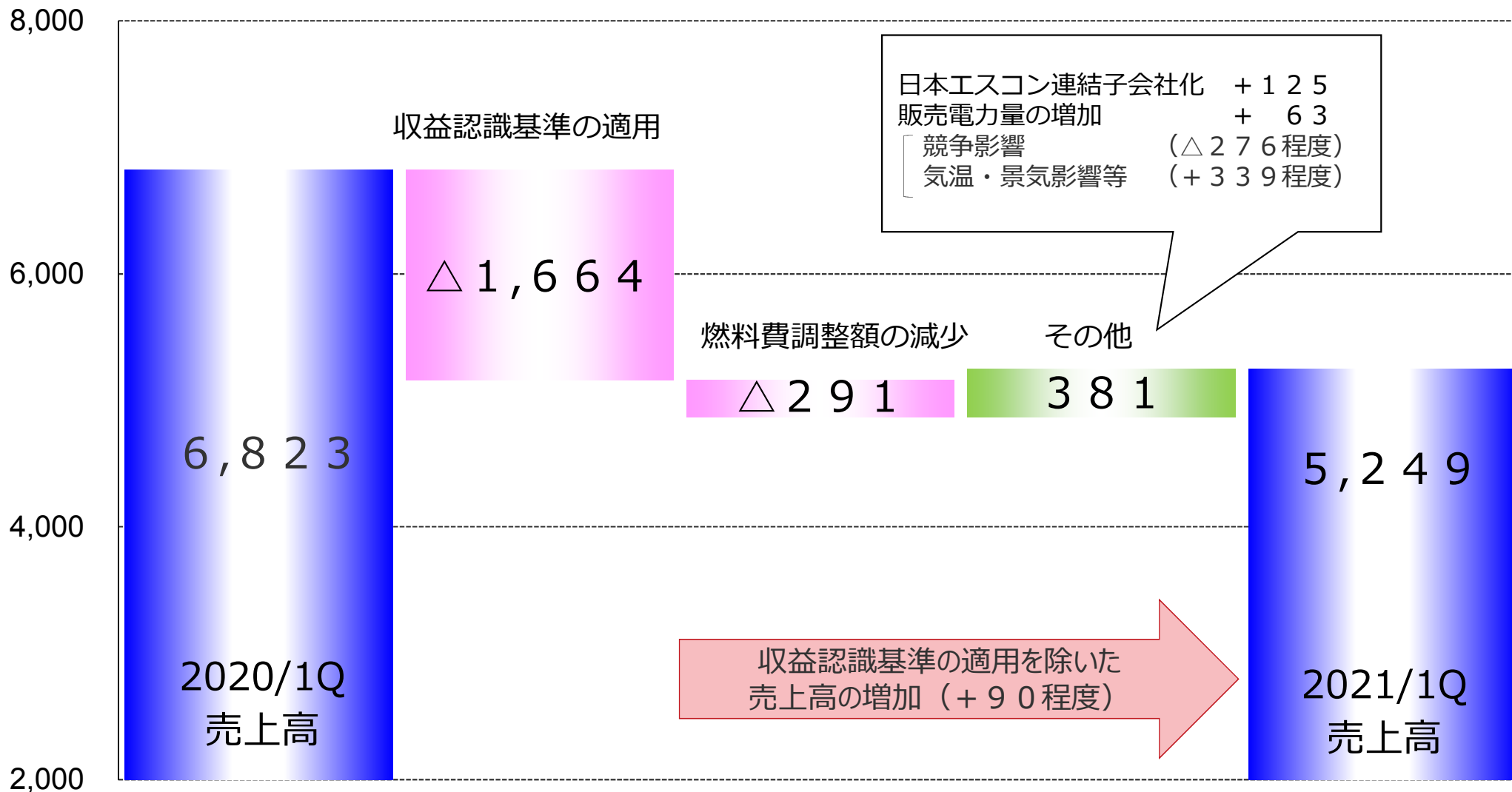
	2021/1Q (A)	2020/1Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
売上高	5,249	6,823	△1,574	△23.1
営業利益	223	384	△161	△42.0
経常利益	485	481	3	0.8
親会社株主に帰属する四半期純利益	337	337	△0	△0.2

(注) 連結対象会社数 2021/1Q 連結子会社 53社(+18社) 持分法適用会社 54社(+7社) [() 内は前年同期差]

決算概要②

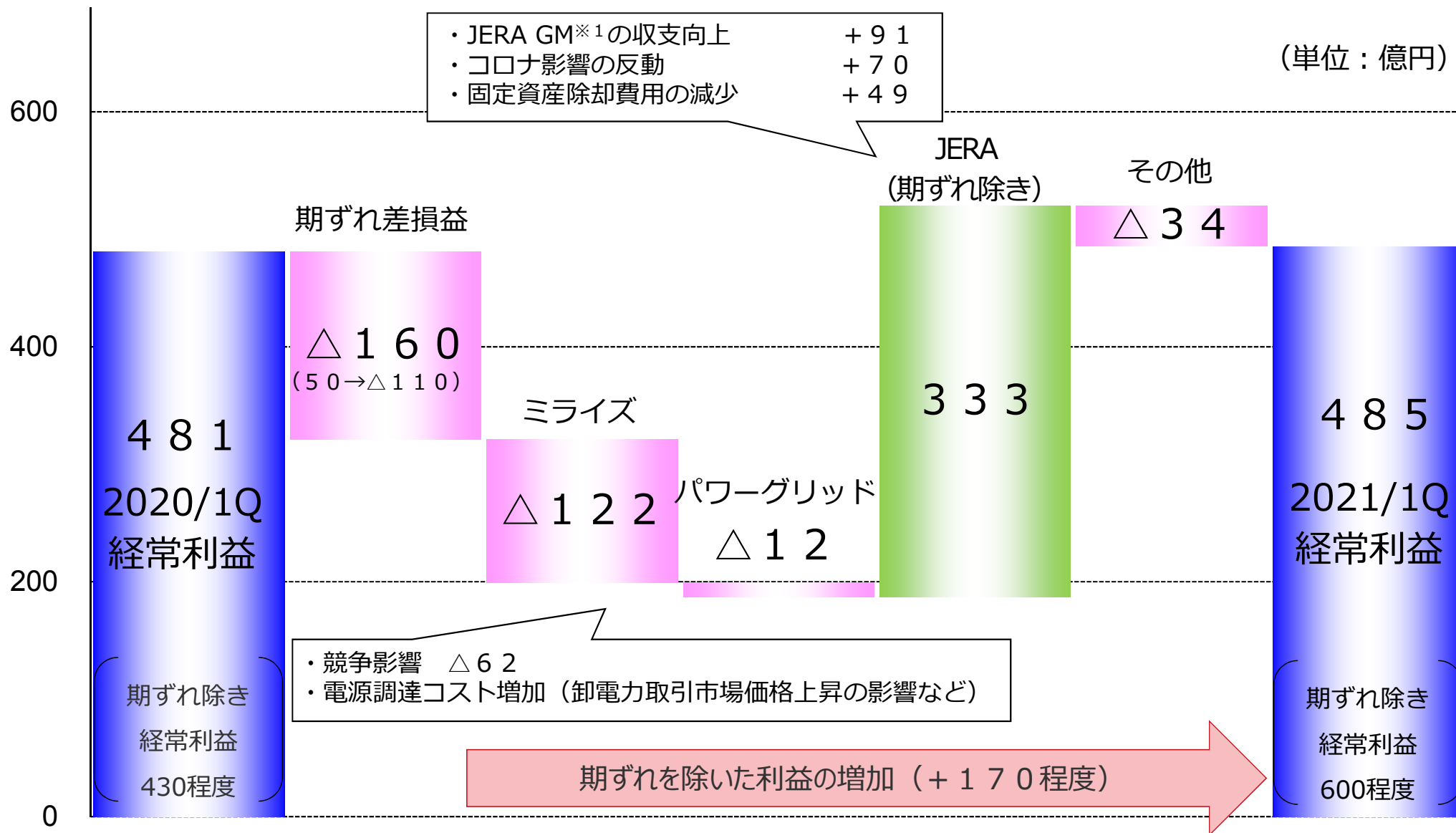
〈連結売上高の変動要因〉 (1,574億円の減収)

(単位：億円)



決算概要③

〈連結経常利益の変動要因〉 (3億円の増益)



※1 LNGおよび石炭トレーディング事業を行うJERAの海外子会社

セグメント別決算概要①

【売上高】

(億円,%)

	2021/1Q (A)	2020/1Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
ミライズ	4,095	5,845	△1,749	△29.9
パワーグリッド	1,738	1,703	34	2.0
その他 (※1)	1,811	1,623	187	11.6
調整額	△2,396	△2,350	△46	2.0
合計	5,249	6,823	△1,574	△23.1

【経常損益】

(億円,%)

	2021/1Q (A)	2020/1Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
ミライズ	45	167	△122	△73.1
パワーグリッド	47	59	△12	△20.5
J E R A (※2)	288	115	173	149.8
その他 (※1)	903	361	541	149.5
調整額	△798	△223	△575	258.0
合計	485	481	3	0.8

(注) 各セグメントは内部取引消去前で記載しております。

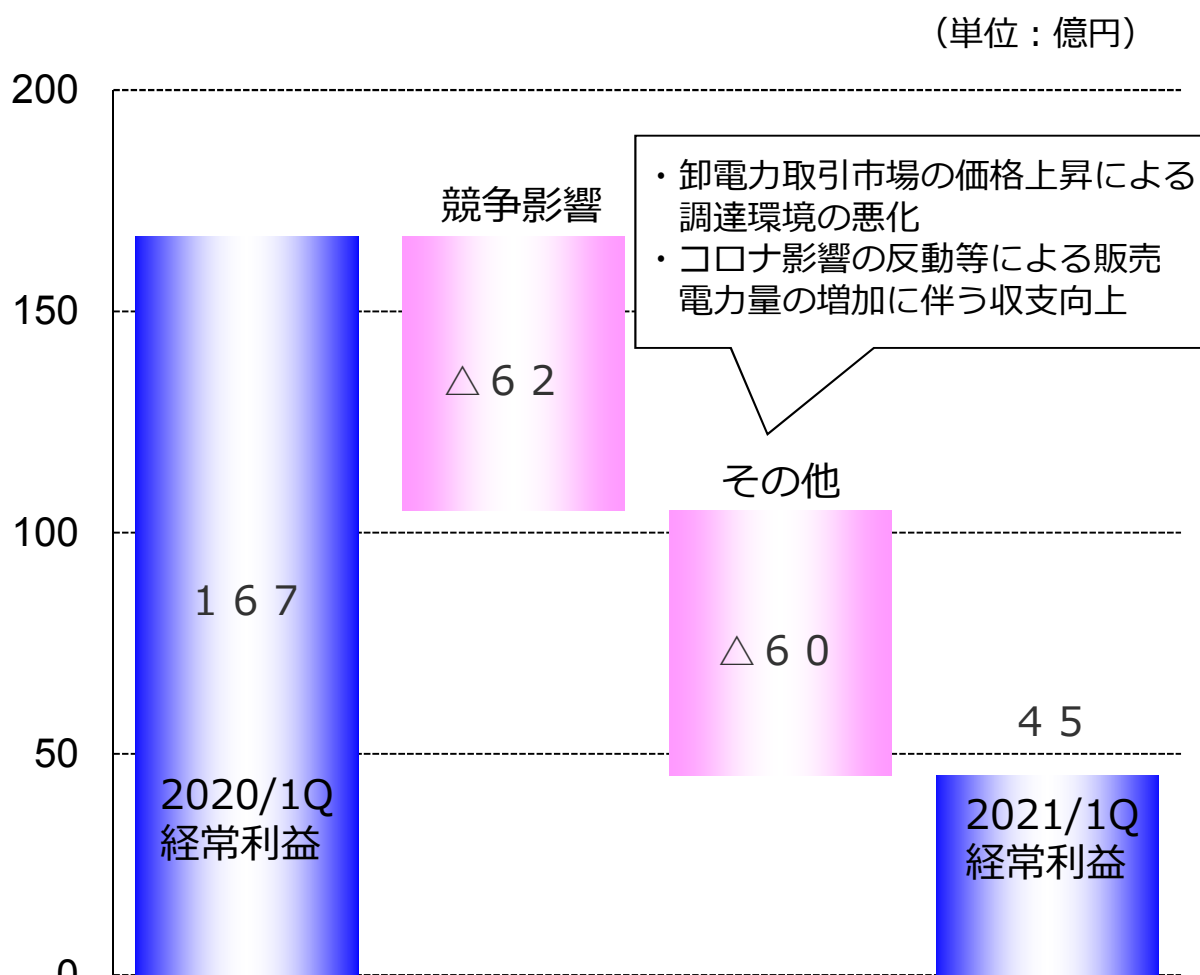
※1 その他の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、当社の再生可能エネルギーカンパニー、原子力部門、管理間接部門、その他の関係会社等を含んでおります。

※2 J E R A は、持分法適用会社のため、売上高は計上されません。

セグメント別決算概要②：ミライズ

〈経常利益の変動要因〉

- 新型コロナウイルス感染症影響の反動などによる販売電力量の増加はあったものの、販売面での競争影響による収支悪化や卸電力取引市場の価格上昇による電源調達コストの悪化などから、前年同期に比べ 122億円の減益



(販売電力量)

	'21/1Q (A)	'20/1Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
低圧	69	75	△6	△8.4
高圧・特別高圧	185	175	10	5.6
合計	254	251	3	1.4

競争影響△15程度、気温・景気等+18程度

[参考]

グループ合計の 販売電力量	273	261	12	4.8
------------------	-----	-----	----	-----

他社販売電力量	19	16	3	19.8
---------	----	----	---	------

※ グループ合計の販売電力量は中部電力ミライズおよびその子会社、関連会社の実績を記載しております。

※ 他社販売電力量は中部電力ミライズの子会社および関連会社への販売電力量を除いて記載しております。

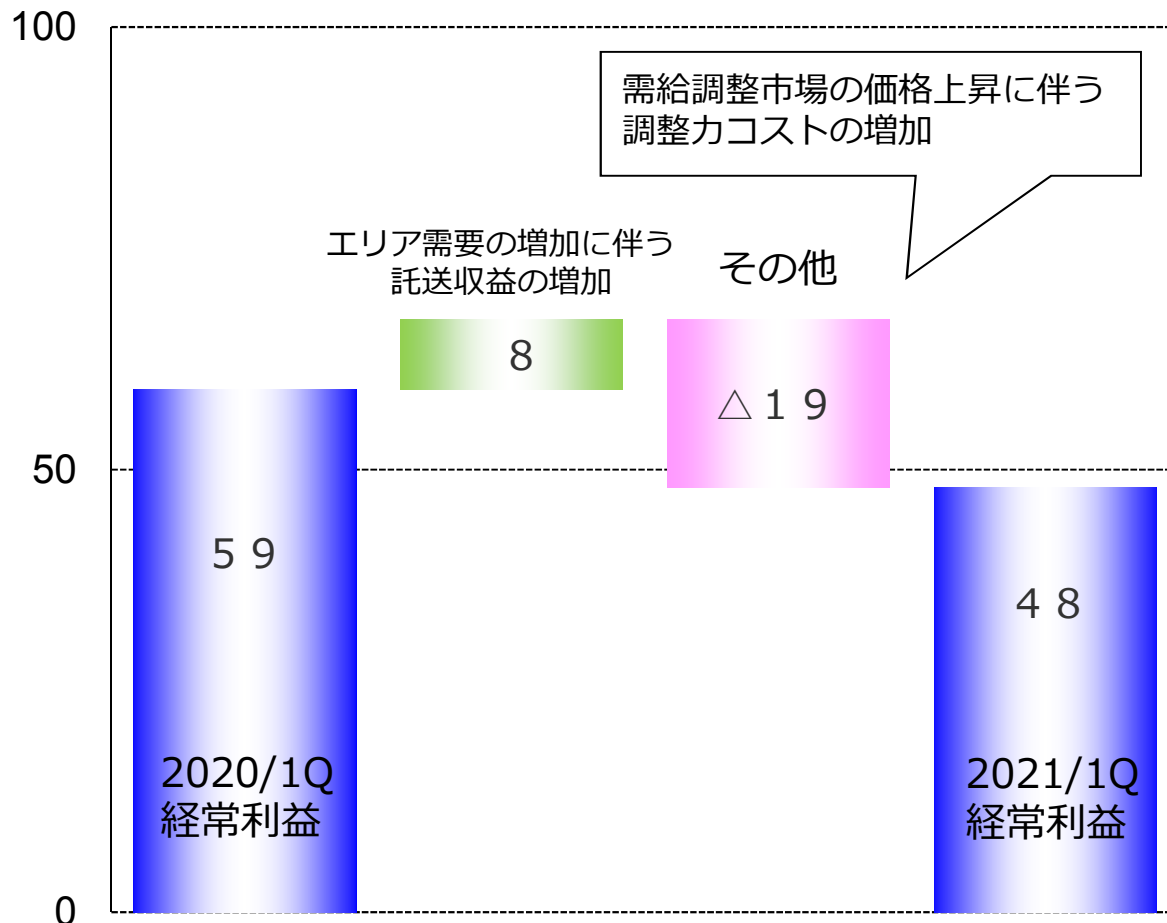
※ 他社販売電力量は期末時点で把握している電力量を記載しております。

セグメント別決算概要③：パワーグリッド

〈経常利益の変動要因〉

- 新型コロナウイルス感染症影響の反動などによるエリア需要の増加はあったものの、需給調整市場の取引価格が上昇したことに伴う調整力コストの増加などから前期同期に比べ11億円の減益

(単位：億円)



(エリア需要)

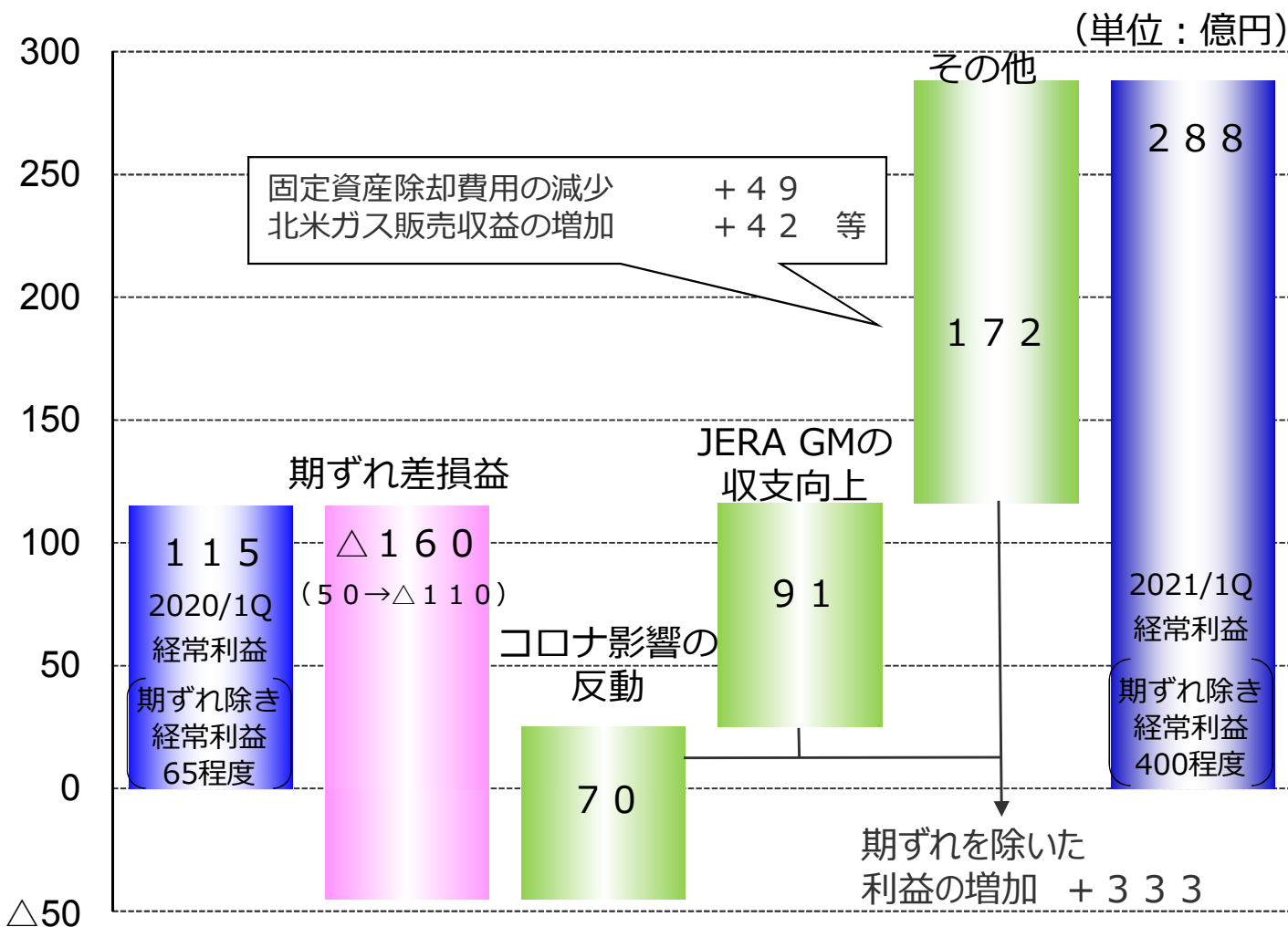
(億kWh,%)

	'21/1Q (A)	'20/1Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
エリア需要	292	273	19	7.1

セグメント別決算概要④：J E R A

〈経常利益の変動要因〉

- 期ずれが差益から差損に転じたことによる収支悪化はあったものの、新型コロナウイルス感染症影響の反動や、LNGおよび石炭トレーディング事業を行うJERA GMの収支向上などから、前年同期に比べ 173億円の増益



(CIF価格・為替レート)

	'21/1Q (A)	'20/1Q (B)	増減 (A-B)
原油CIF価格(\$/b)	66.9	32.3	34.6
為替レート(円/\$)	109.5	107.6	1.9

※2021/1Qの原油CIF価格は速報値

(参考：JERA連結決算値)

	'21/1Q (A)	'20/1Q (B)	増減 (A-B)
連結純利益(億円)	640 (869)	295 (189)	345 (680)

() 内は期ずれ除き連結純利益

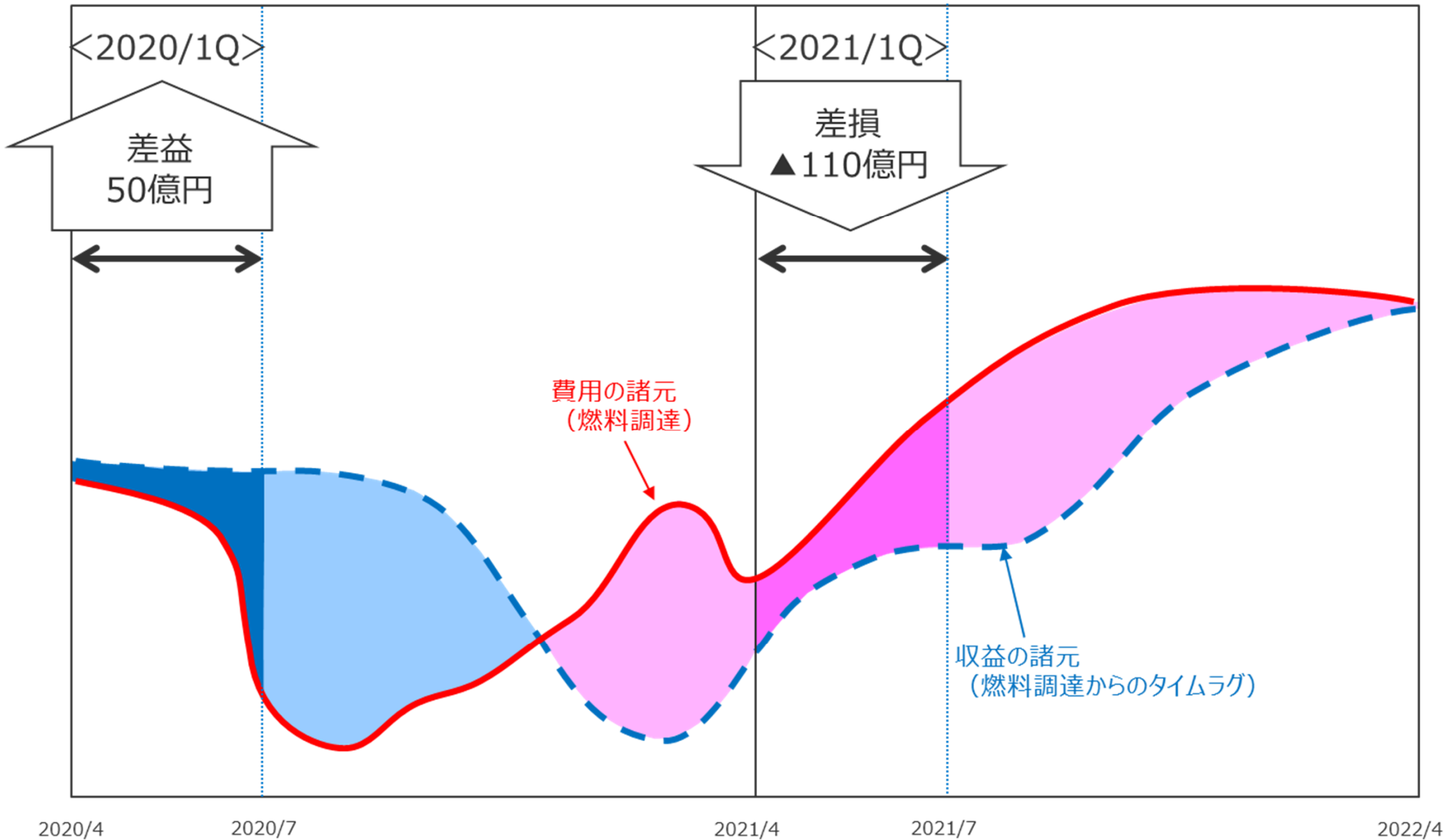
〈発電電力量〉（中部電力）

- **水力** 出水率が前年同期を上回り、2億kWh増加
- **新エネルギー** 前年同期並み

(億kWh,%)

	2021/1Q (A)	2020/1Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
水力 (出水率)	28 (105.8)	26 (95.4)	2 (10.4)	6.3
原子力 (設備利用率)	— (—)	— (—)	— (—)	—
新エネルギー	0	1	△0	△50.7
合計	28	27	1	4.4

(参考) 期ずれ影響のイメージ (実績)



2021年度 業績見通しの概要①

〈業績見通し〉(連結) 2021年4月28日公表の業績予想値を修正

- 売上高：2兆4,000億円
燃料価格の上昇に伴う燃料費調整額の増加などにより、前回公表から400億円の増収
- 経常利益：1,100億円
燃料価格の上昇に伴う期ずれ差損の拡大により、前回公表から△200億円の減益
なお、期ずれを除いた利益は、1,500億円程度となる見込み（前回公表から変更なし）

- ・ 売上高は、2020年度に続き、2年連続の減収
- ・ 経常利益は、2018年度以来、3年ぶりの減益
- ・ 2016年度以来、5年ぶりの減収減益

(億円,%)

	今回公表 (A)	4/28公表 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
売上高	24,000	23,600	+400程度	1.7
経常利益	1,100	1,300	△200程度	△15.4
親会社株主に帰属する当期純利益	750	950	△200程度	△21.1

[参考] 前期比較

(億円,%)

	今回公表 (A)	2020年度実績 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
売上高	24,000	29,354	△5,350程度	△18.2
経常利益	1,100	1,922	△820程度	△42.8
親会社株主に帰属する当期純利益	750	1,472	△720程度	△49.0

2021年度 業績見通しの概要②

【主要諸元】

(中部電力ミライズの販売電力量)

(億kWh,%)

	今回公表 (A)	4/28公表 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
販売電力量	1,099	1,099	-	-
グループ合計の販売電力量	1,180	1,180	-	-

[参考] 前期比較

競争影響△35程度、気温・景気等+30程度

(億kWh,%)

	今回公表 (A)	2020年度実績 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
販売電力量	1,099	1,107	△8	△0.7
グループ合計の販売電力量	1,180	1,171	9	0.7

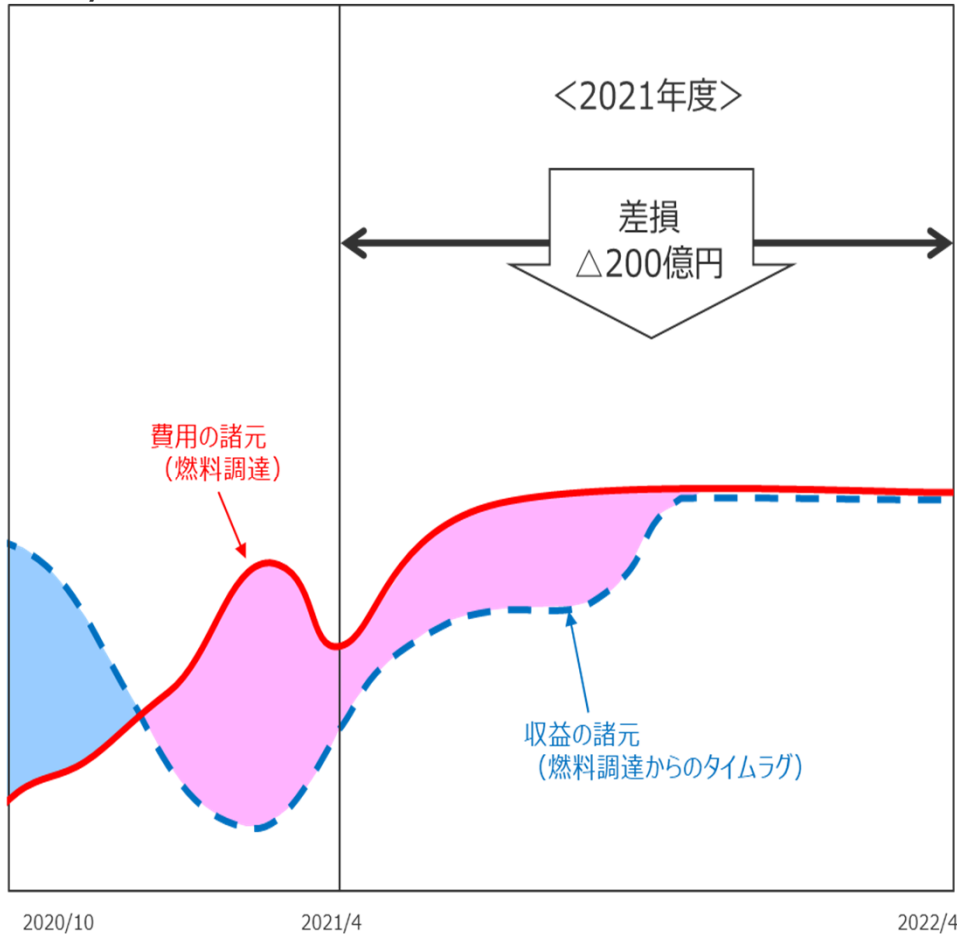
※ グループ合計の販売電力量は、中部電力ミライズおよびその子会社、関連会社の値を記載しております。

(その他)

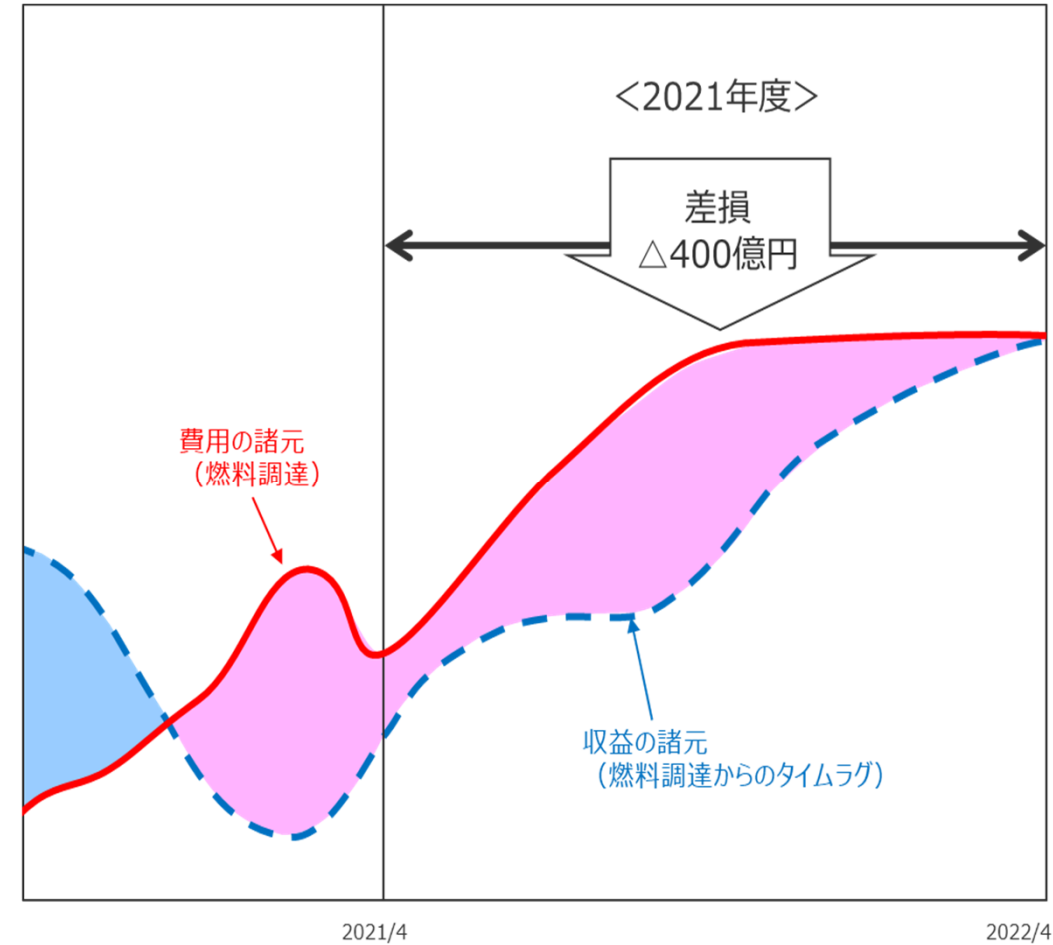
	今回公表	4/28公表	<参考> 2020年度実績
原油CIF価格 (\$/b)	72程度	62程度	43
為替レート (円/\$)	110程度	110程度	106
原子力利用率 (%)	—	—	—

(参考) 期ずれ影響のイメージ (年度見通し)

○4/28公表 (△200億円)



○今回公表 (△400億円)



Ⅱ 参考データ：決算・財務関連

連結収支比較表

(億円,%)

	2021/1Q (A)	2020/1Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
営業収益 (売上高)	5,249	6,823	△1,574	△23.1
持分法による投資利益	293	132	160	121.4
その他収益	25	18	6	34.7
営業外収益	318	151	167	110.6
経常収益	5,567	6,974	△1,406	△20.2
営業費用	5,026	6,438	△1,412	△21.9
営業外費用	55	54	1	2.8
経常費用	5,081	6,492	△1,410	△21.7
(営業利益)	(223)	(384)	(△161)	(△42.0)
経常利益	485	481	3	0.8
湯水準備金	—	△0	0	—
法人税等	145	136	8	6.4
非支配株主に帰属する四半期純利益	3	7	△4	△61.4
親会社株主に帰属する四半期純利益	337	337	△0	△0.2

連結財政状態の概要

(億円)

	2021/6末 (A)	2021/3末 (B)	増減 (A-B)
資産	59,190	56,863	2,327
負債	37,399	35,826	1,573
純資産	21,790	21,036	753

<主な増減理由>

日本エスコン連結子会社化に伴う増加 等

	2021/6末 (A)	2021/3末 (B)	増減 (A-B)	2021年度 見通し
自己資本比率(%)	35.0	35.7	△0.7	34程度
有利子負債残高	26,194	23,336	2,858	28,000程度
D/Eレシオ (倍)	1.2	1.2	—	1.2程度

(%)

	2021年度 見通し	【参考】 2020年度
ROA	2程度 (3程度)	3.8 (3.4)
ROE	4程度 (6程度)	7.5 (6.3)

()内は期ずれ除きの数値

(億円)

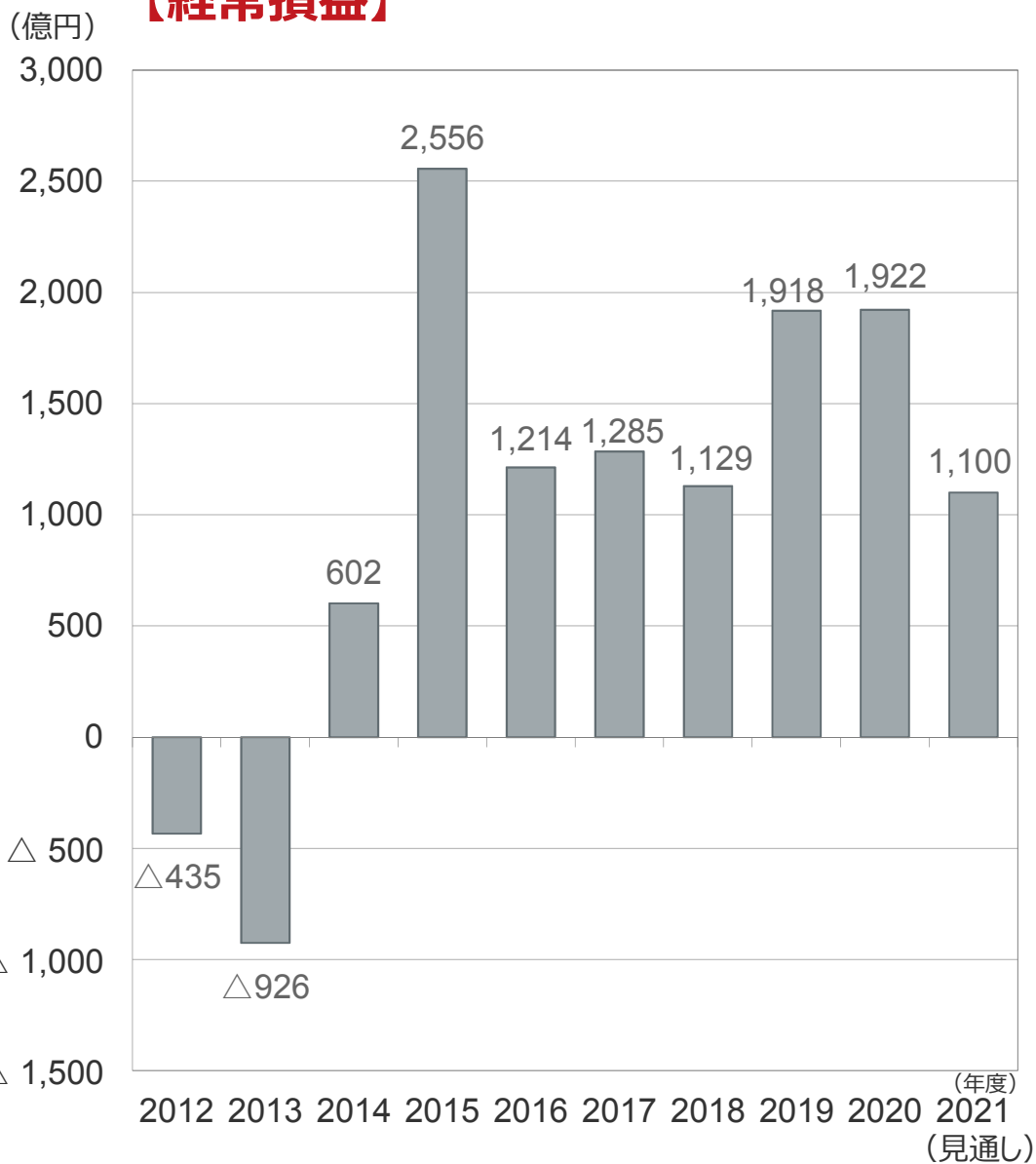
	2021年度 見通し	2021/1Q	【参考】 2020年度
戦略的投資	2,400程度 (3,900程度)	300程度 (1,800程度)	400程度 (1,500程度)

()内は2019年度からの累計額。当社は2019年度から2023年度までの5年間累計4,000億円以上の戦略的投資を目指しております。

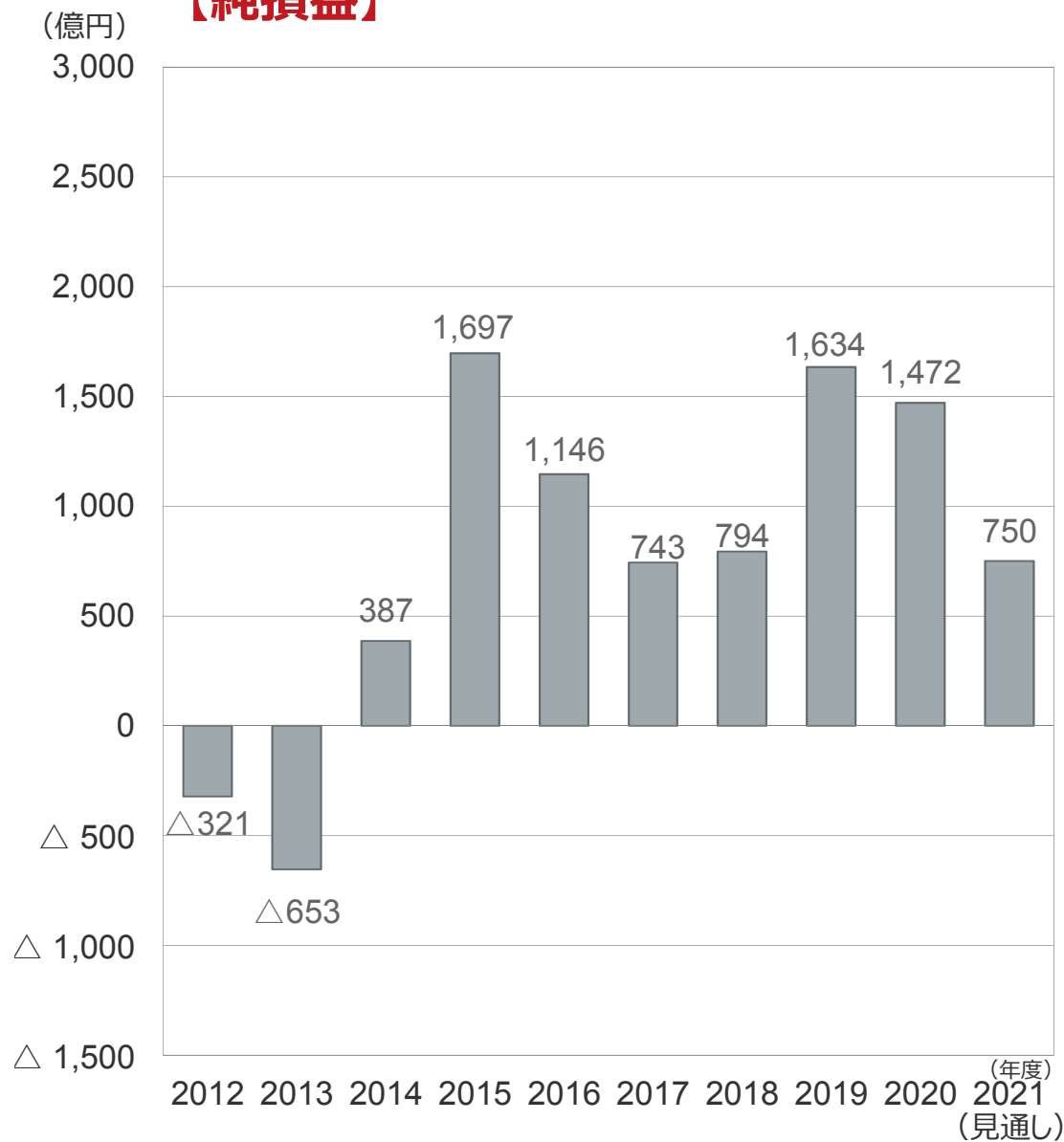
Ⅲ 参考データ：経営関連

連結経常損益・純損益の推移

【経常損益】

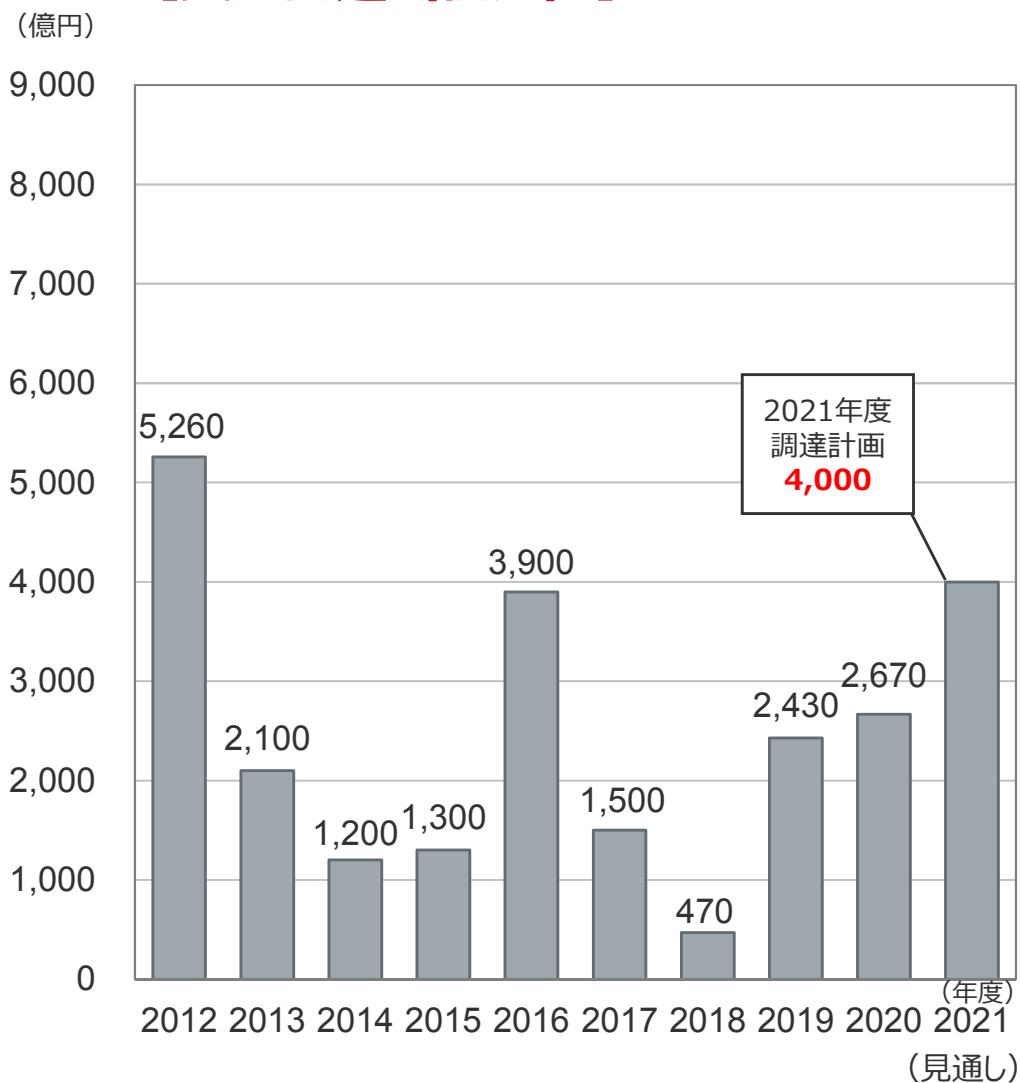


【純損益】

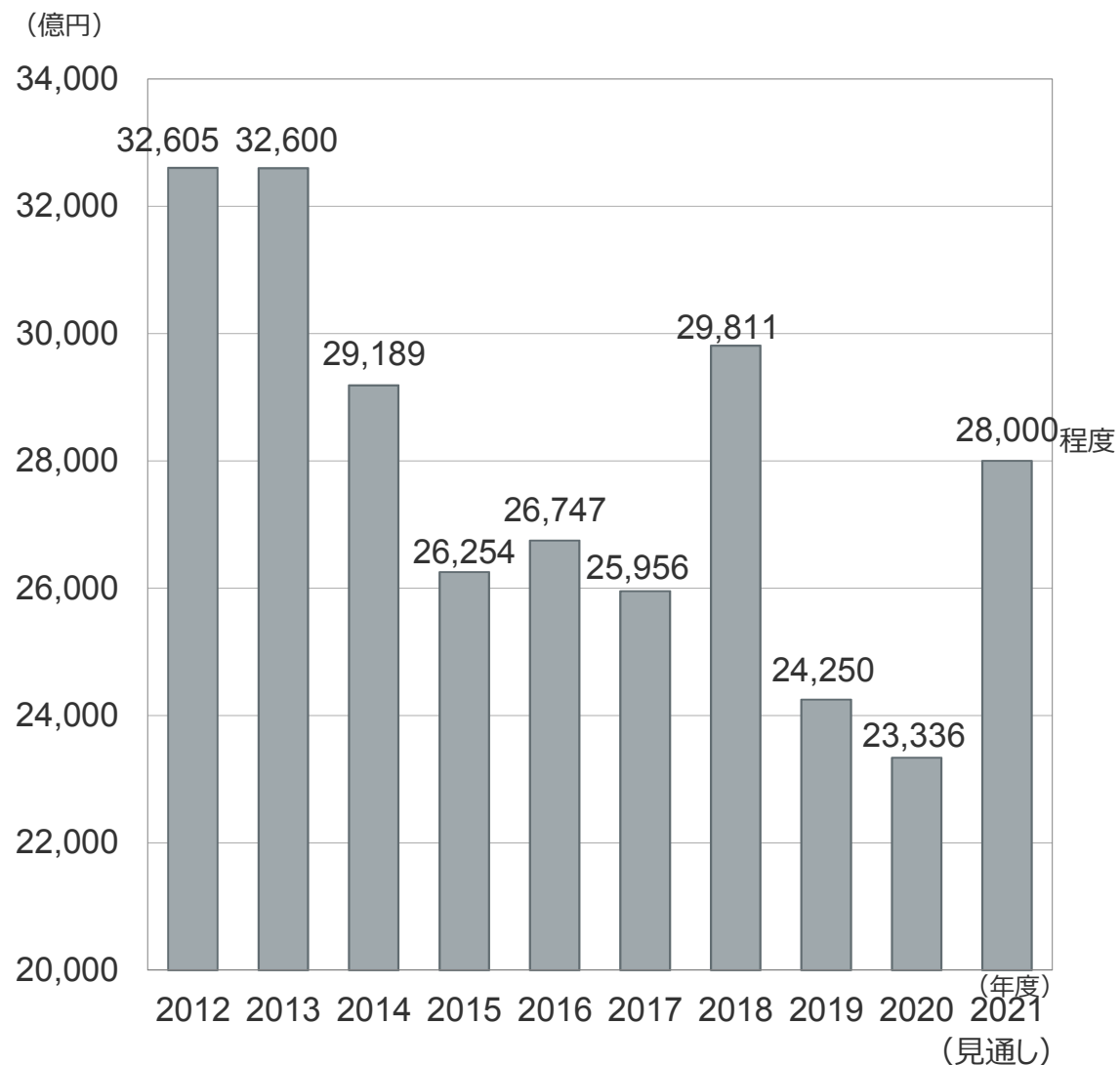


資金調達・有利子負債残高の推移

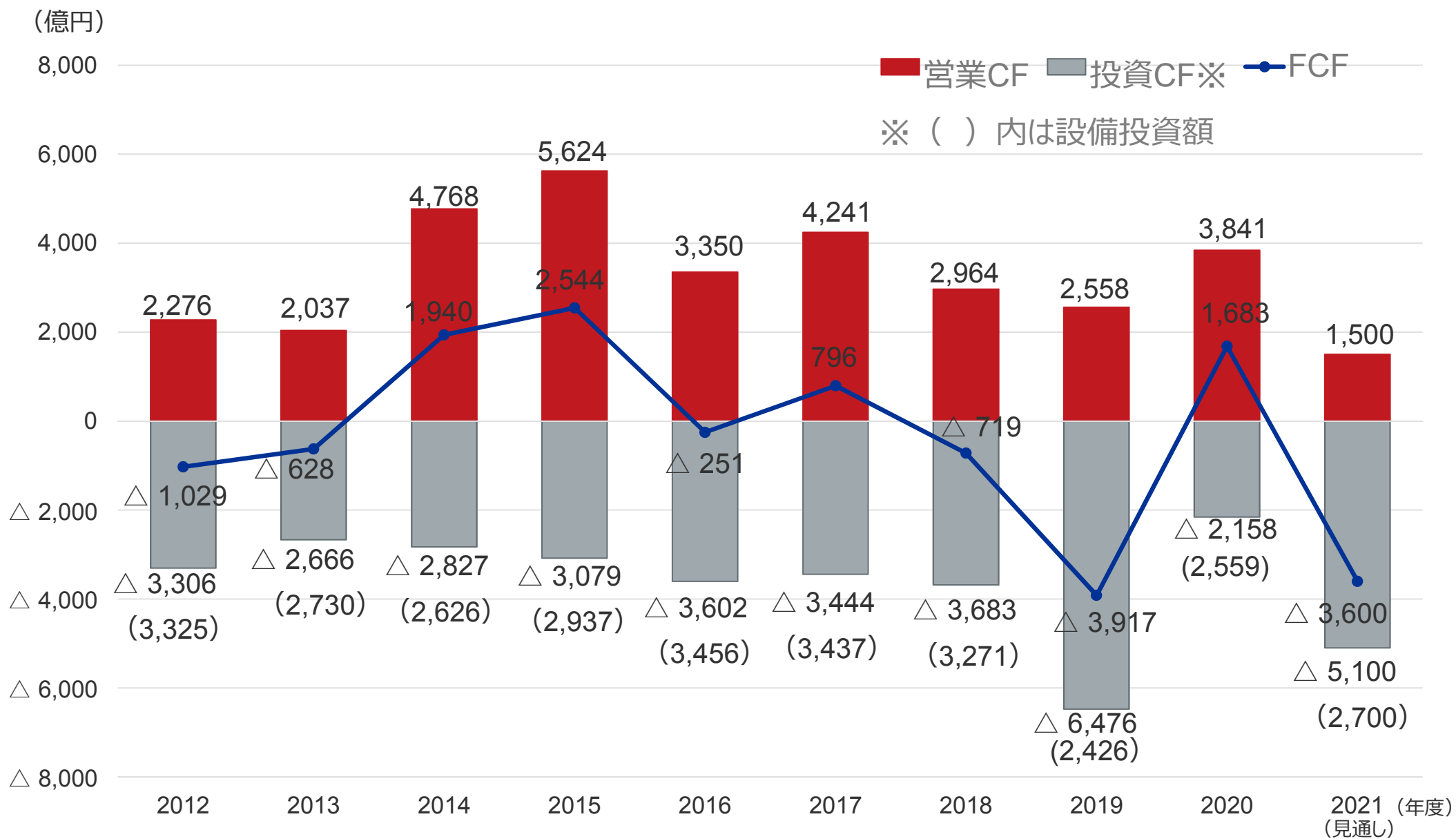
【資金調達（個別）】



【有利子負債残高（連結）】

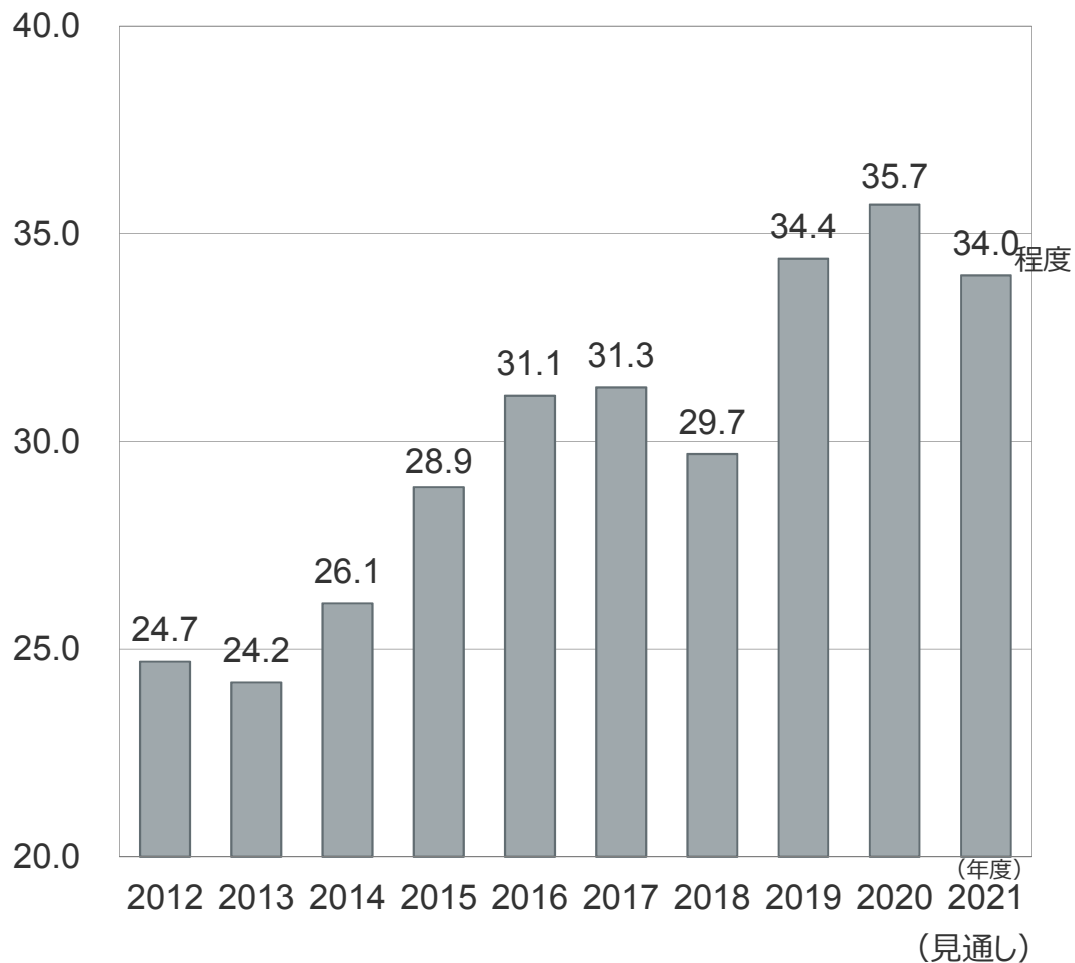


連結キャッシュ・フローの推移

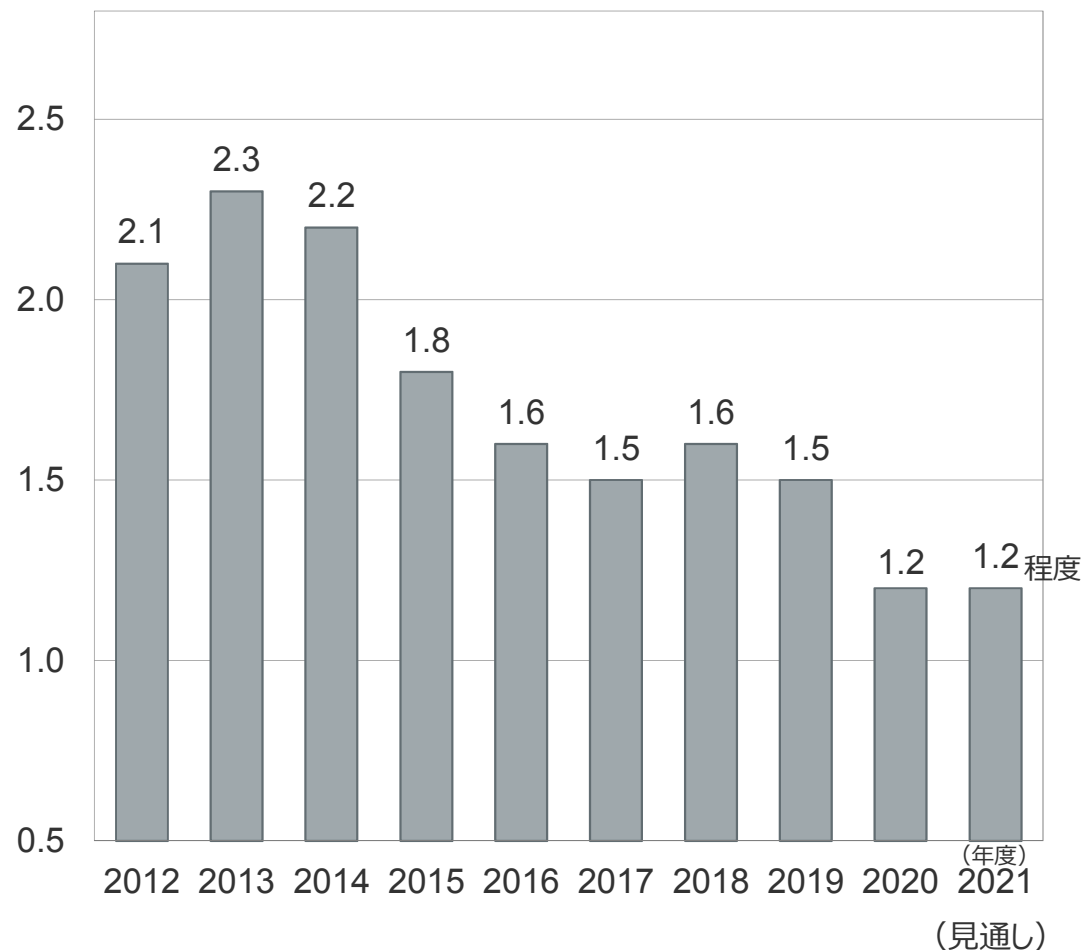


連結財務体質の推移・格付

(%) **【自己資本比率】**



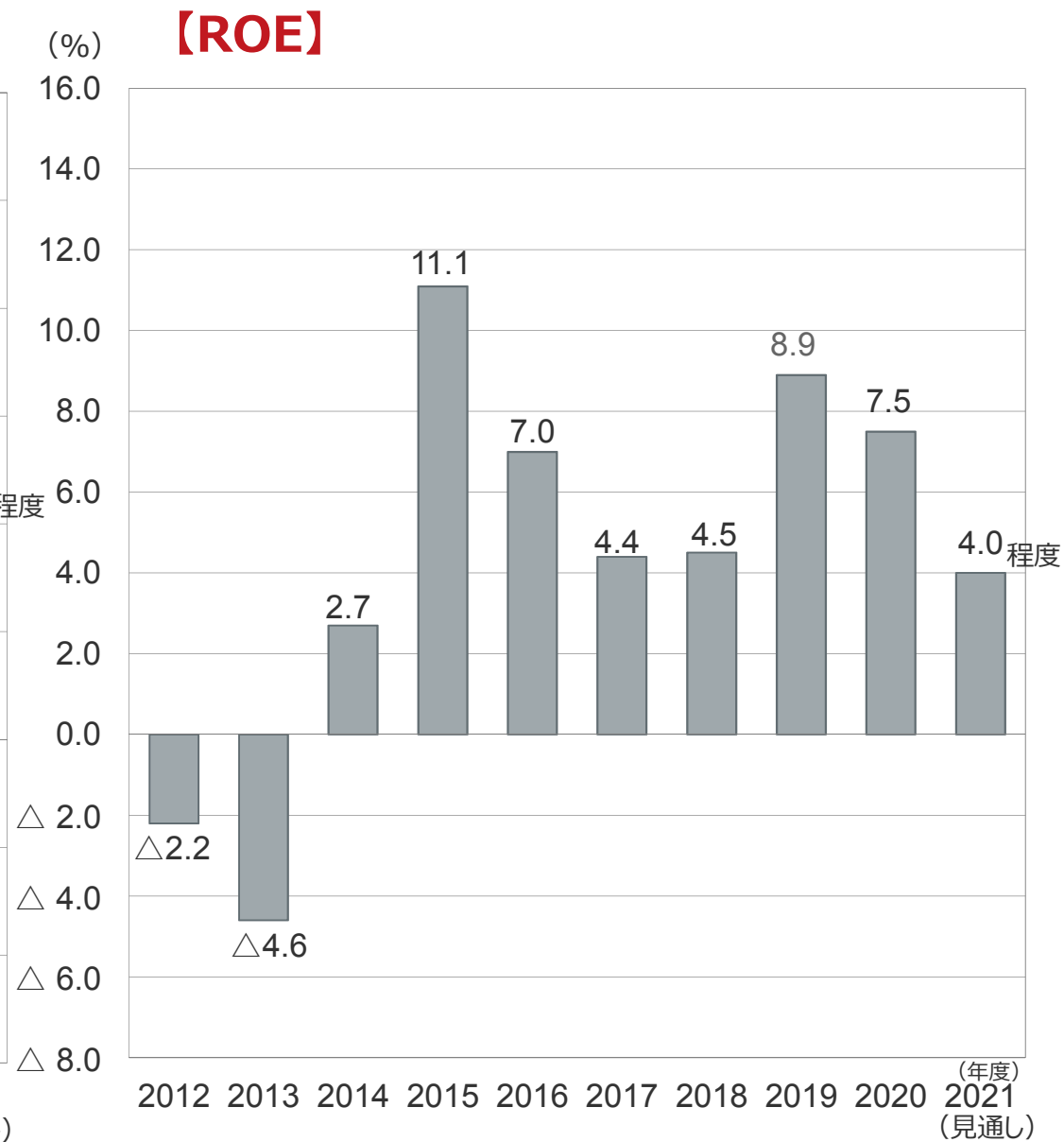
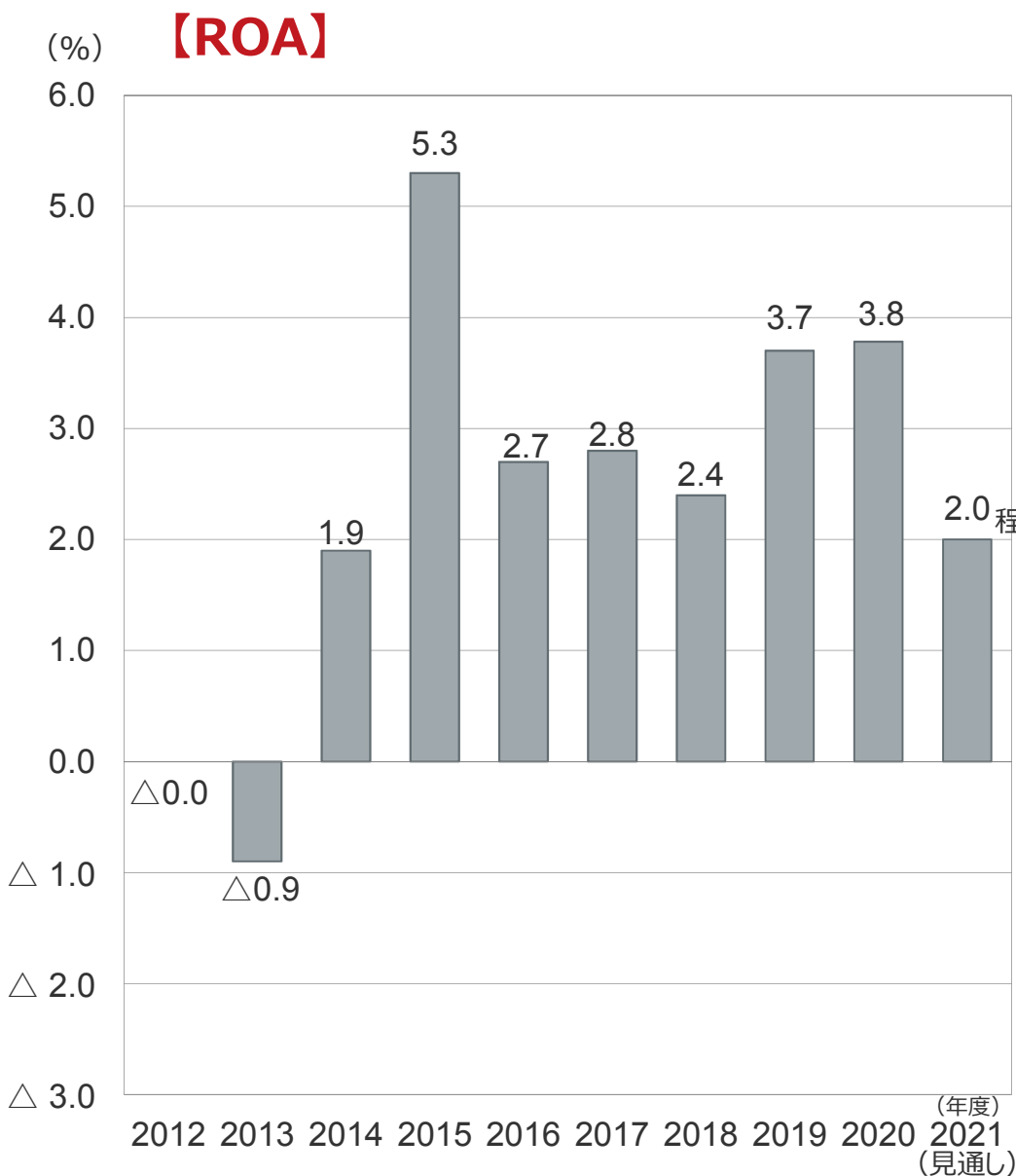
(倍) **【D/Eレシオ】**



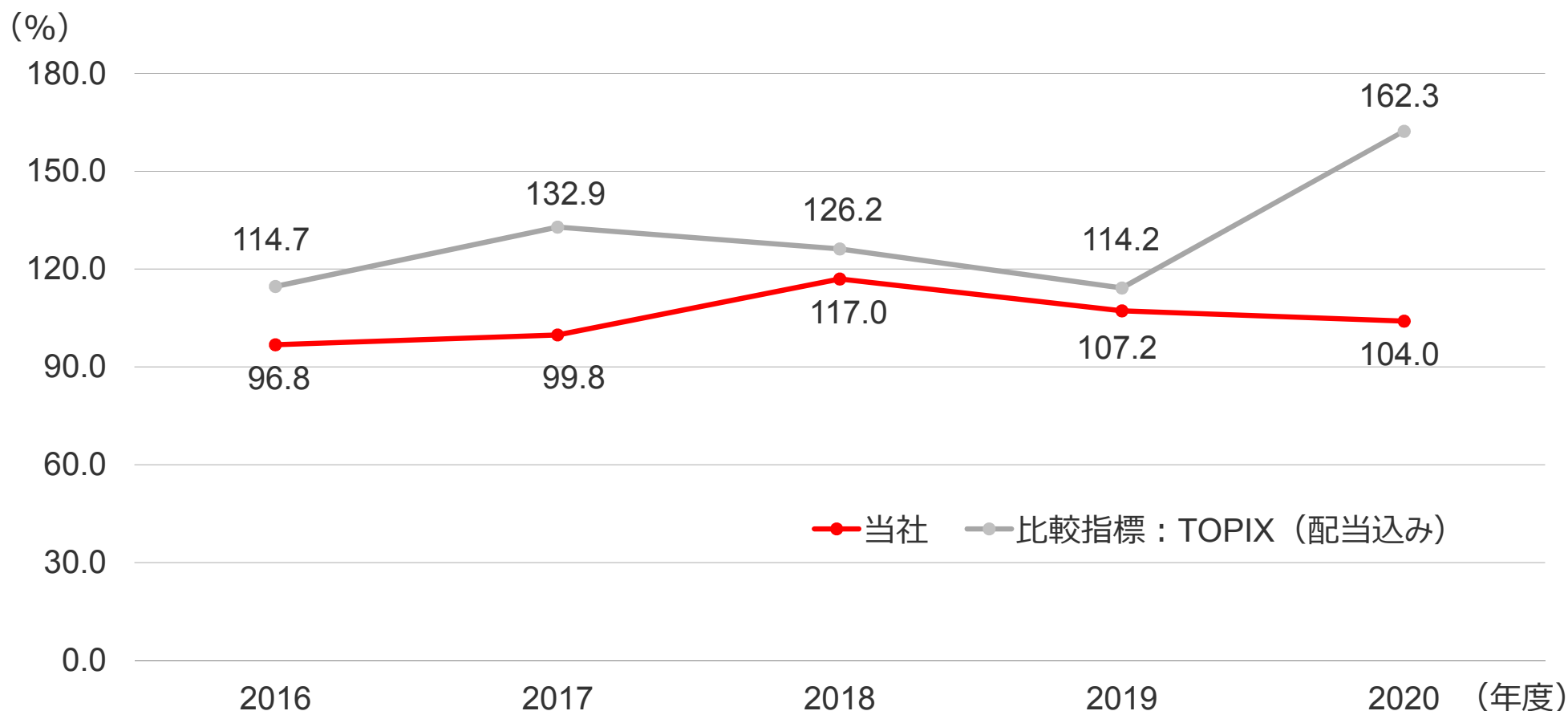
【格付取得状況(長期格付)】

Moody's	R&I	JCR
A3	A+	AA

連結ROA・ROEの推移



株主総利回り（TSR）の推移



株主総利回り（トータルシェアホルダーリターン）とは、株式投資により得られた収益（配当とキャピタルゲイン）を投資額（株価）で割った比率をいう。

<計算式>

$$\frac{\text{各事業年度末日の株価} + \text{当事業年度の4事業年度前から各事業年度までの1株当たり配当額の累計額}}{\text{当事業年度の5事業年度前の末日の株価}}$$

ミライズグループ販売状況について

		2021/1Q	目標
域内	電気新料金メニュー加入実績	約236万件 (6月時点)	—
	各種サービスと電気またはガスとのセット販売件数	約5.1万件 (6月時点)	2021年度以降早期に10万件獲得
域外	エリア外での販売電力量	30億kWh	2020年代後半、首都圏の販売電力量 年間約300億kWhに拡大
	CDIナジーダイレクトの供給件数（電力・ガス計）	約41万件 (7月21日時点)	将来的に約300万件相当のお客さまへの サービス提供
ガス	ガス・LNG販売量	28.8万t	2020年代後半で年間300万tに拡大
	ガス料金メニュー申込み件数	約43.9万件 (7月7日時点)	—

ミライズ販売電力量の月別推移

(億kWh)

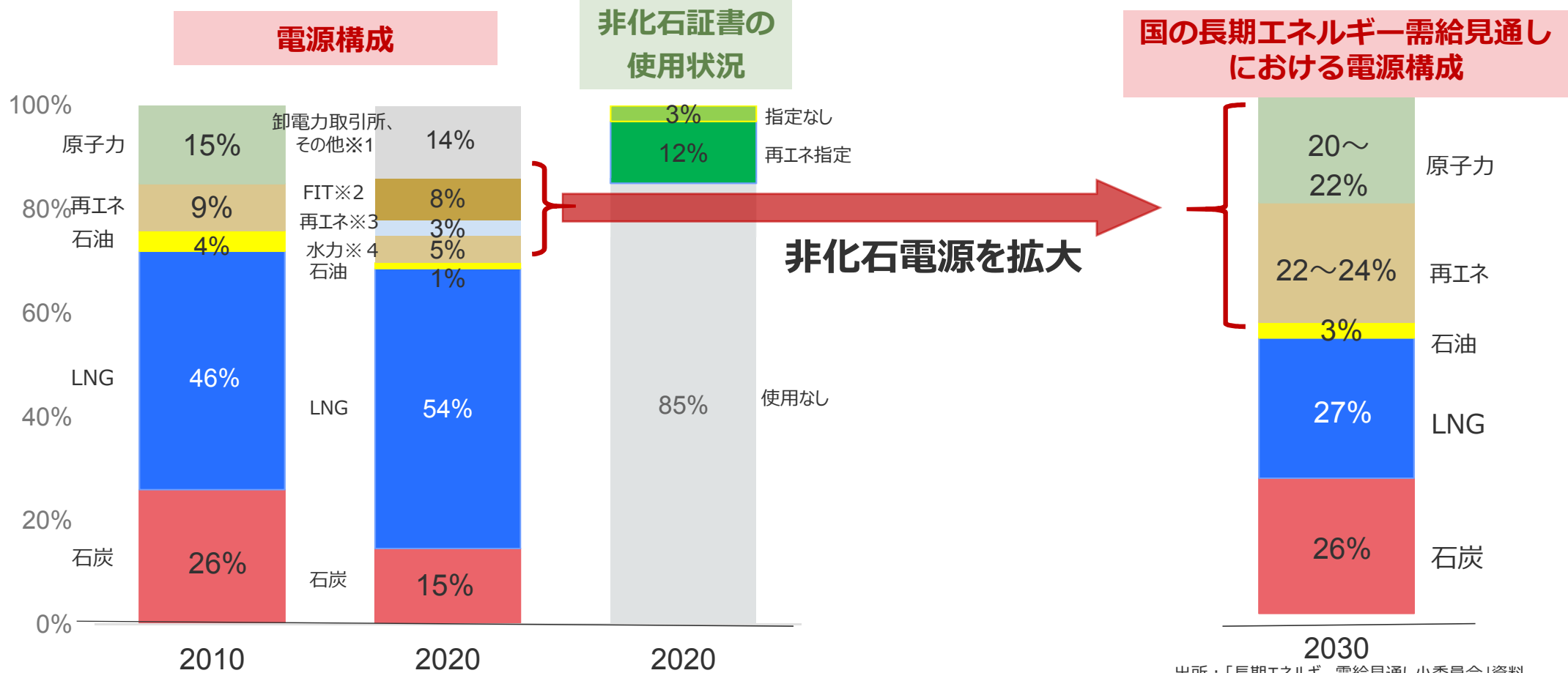
	2021年度		
	4月	5月	6月
低圧	27	23	19
高圧・特別高圧	61	58	66
合計	88	81	84

(億kWh)

	2020年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度
低圧	29	26	20	24	31	30	23	25	25	42	34	30	339
高圧・特別高圧	60	54	61	67	68	73	66	63	63	64	64	65	769
合計	90	80	81	91	99	103	89	88	88	105	98	95	1,107

※ 端数処理の関係で合計が合わない場合があります。

2020年度電源構成 (速報値)



(注1) 融通・他社受電を含みます

(注2) 当社は再生可能エネルギー100%とするメニューを一部のお客さまに対して販売しており、それ以外の電源を特定していないメニューの構成比を示しています

(注3) 非化石証書の使用状況について、エネルギー供給事業者による非化石エネルギー源の利用及び化石エネルギー原料の有効な利用の促進に関する法律（以下、「エネルギー供給構造高度化法」という。）に基づき算定する非化石電源比率とは異なる比率となります。

なお、非FIT非化石証書の取引開始が2020年4月発電分からのため、エネルギー供給構造高度化法の算定と同様に、販売電力量に9/12倍にして非化石証書の比率を算定しています。

※1 日本卸電力取引所(JEPX)からの調達、他社から調達している電気で発電所が特定できないもの

※2 当社がこの電気を調達する費用の一部は、当社のお客さま以外の方も含め、電気をご利用のすべての皆さまから集めた賦課金により賄われており、この電気のCO2排出量については、火力発電なども含めた全国平均の電気のCO2排出量を持った電気として扱われます。

※3 水力3万kW以上、FIT電気を除く

※4 3万kW以上

出所：「長期エネルギー需給見通し小委員会」資料

再生可能エネルギー事業の概要

➤ 2030年頃に200万kW以上の開発目標に対し、現時点の持分出力*は、グループ全体で約57万kW。目標に対して29%程度進捗（2017年度末～2021年6月までの進捗）。

*未運開だが開発決定済み案件を含む

設備容量

200万kW以上の開発により
設備容量を約2倍に

313万kW※1

256万kW※1

太陽光 52
風力 19
バイオマス 26
水力 216
(揚水除く)

2030年頃

2017年度末 現時点 (2021年6月)

※1 グループ会社含む設備容量

当社の主な開発地点

宮古くざかいソーラーパーク 18,000kW
2019年5月運転開始

秋田港・能代港 洋上風力
約13.9万kW 2022年度運転開始予定

神栖 バイオマス
50,000kW 2023年度運転開始予定

敦賀グリーンパワー
37,000kW 2021年2月取得

美濃加茂バイオマス
7,100kW
2023年度運転開始予定

米子 バイオマス
54,500kW 2021年度運転開始予定

四日市 バイオマス 49,000kW
2020年5月運転開始

八代 バイオマス
75,000kW 2024年度運転開始予定

ごうど バイオマス
7,500kW 2022年度運転開始予定

内ヶ谷 水力
720kW 2025年度運転開始予定

清内路 水力
5,600kW 2022年度運転開始予定

黒川平 水力
170kW
2021年度運転開始予定

いちしろ 水力
160kW
2021年度運転開始予定

安倍川 水力
7,500kW
2024年度運転開始予定

御前崎港 バイオマス
74,950kW
2023年度運転開始予定

愛知蒲郡 バイオマス
50,000kW 2023年度運転開始予定

あつみ 陸上風力
7,400kW 2022年度運転開始予定

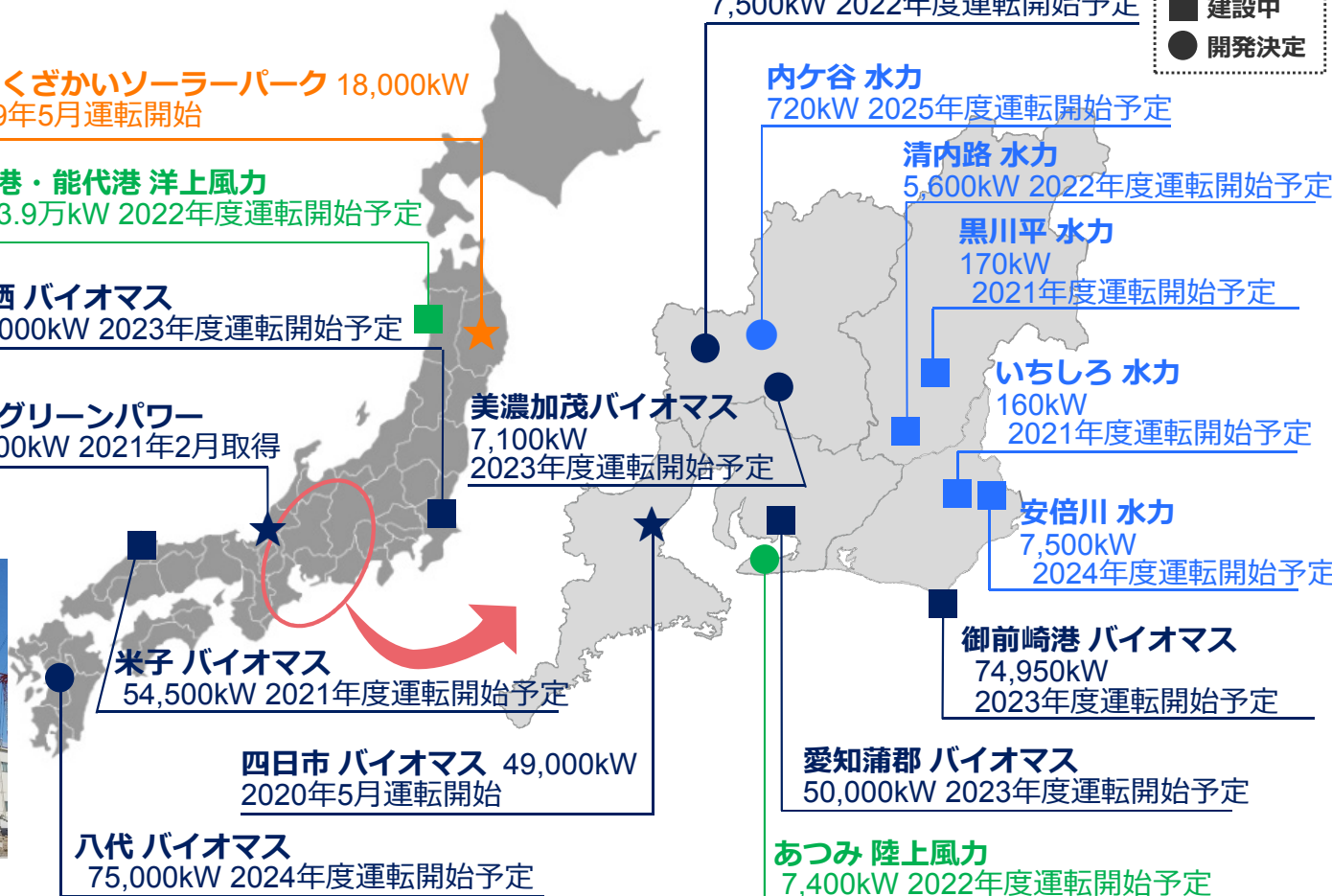
現在の状況
★ 運転開始
■ 建設中
● 開発決定



清内路水力発電所
(建設状況)



米子バイオマス発電所
(建設状況)



海外事業の概要①

- リスクとリターンのバランスを考慮し、送電、配電、再エネ発電、小売（新サービス）に分散して投資
- Enecoを**欧州戦略上のプラットフォーム**と位置付け、再エネ・小売・新サービス等の成長領域を拡大

【オランダ総合エネルギー事業会社Eneco社の買収について】

案件概要

出資額		41億ユーロ（約5千億円） 出資比率：三菱商事80%、中部電力20%（2020年3月出資）
Enecoの概要	事業	電力・ガス・熱供給の総合エネルギー事業 （年間電力取扱量約300億kWh、ガス取扱量約500億kWh(電力換算)、顧客口数約600万口）
	地域	オランダ、ベルギー、ドイツ等
	財務状況	Eneco純利益（2020年末） 118百万ユーロ（約146億円 ^{※1} ） 前年比約48%増 中部電力連結影響（2020年度）：1億円 ^{※2}

※1 1ユーロ=125円換算

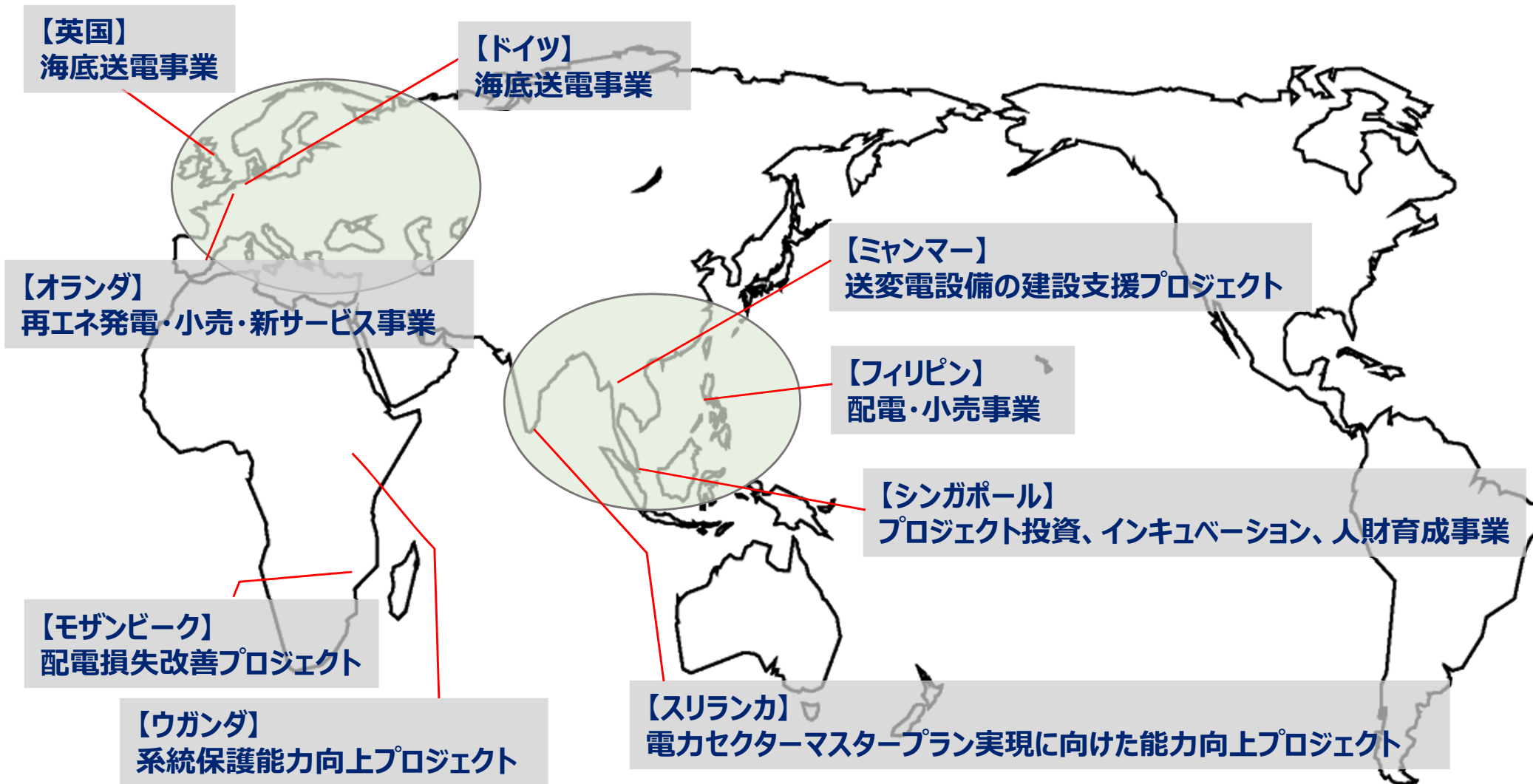
※2 2020.12に、オランダでの法人税率引下げが撤回されたことにより、会計処理として、一時的な税金費用が発生

【Enecoと当社とのコラボレーション（例）】

Eneco→当社	再エネ	・Enecoが保有する洋上風力の開発・運営に関する知見の当社への還元
当社→Eneco	再エネ・熱供給等	・当社が持つ保守・メンテナンスに関する知見の提供
	小売	・ミライズのお客さまの在欧現地法人に対するグリーン電力販売およびルーフトップソーラー設置の提案

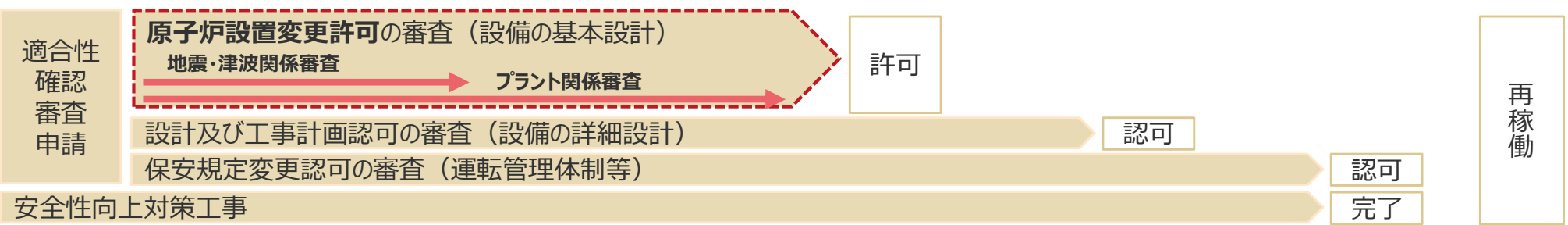
＜再エネ開発目標＞
2025年までに再エネ持分容量を320万kWに増加
（2020年末：持分容量約170万kW）

現在の主な投資プロジェクト・コンサル案件

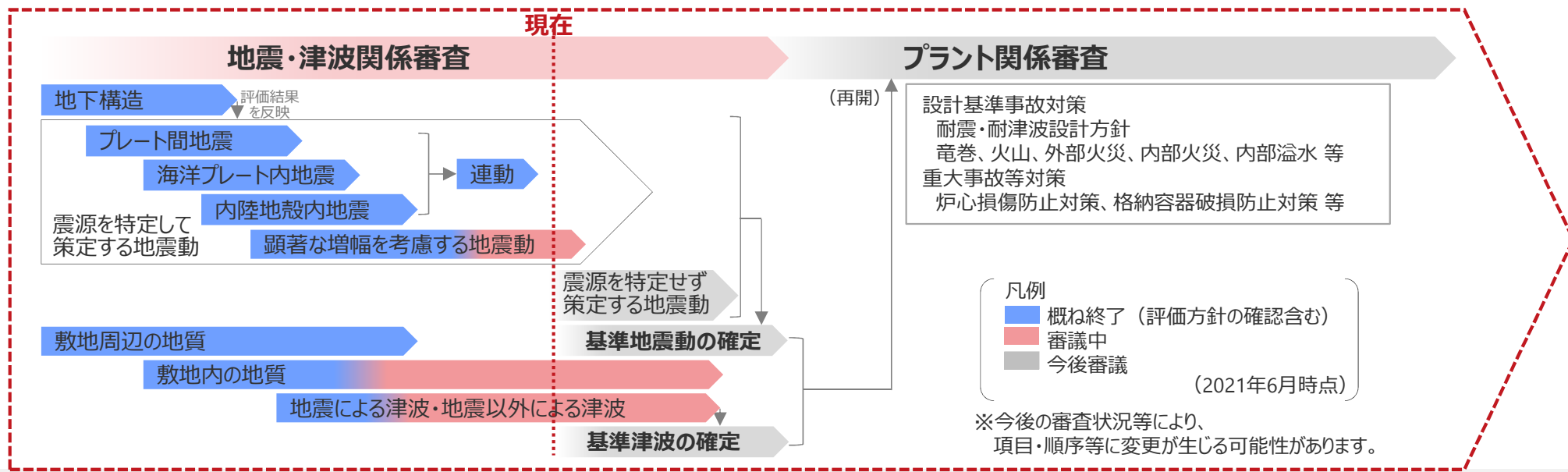


浜岡原子力発電所の審査状況

浜岡原子力発電所は、「福島第一原子力発電所のような事故を二度と起こさない」という固い決意のもと、安全性向上対策を進めており、原子力規制委員会による新規制基準への適合性確認審査を受けています。**基準地震動・基準津波の概ね確定後は、プラント関係審査が進むとともに、これらに基づき安全性向上対策の内容がご説明できるようになります。**



原子炉設置変更許可の主な審査項目と浜岡原子力発電所の審査進捗状況



当資料取扱上のご注意

当資料に記載の将来の計画や見通し等は、現在入手可能な情報に基づき、計画のもとになる前提、予想を含んだ内容を記載しております。

これらの将来の計画や見通し等は、潜在的なリスクや不確実性が含まれており、今後の事業領域を取りまく経済状況、市場の動向等により、実際の結果とは異なる場合がございますので、ご承知おきいただきますようお願い申し上げます。

また、当資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。



中部電力